

6/11

東京 2020 オリンピック聖火リレー 三戸町から 2 人のランナーが出場しました

有料老人ホームこのはずく勤務の田口真優さん（26 歳）と、住谷野勤務の小原国宏さん（47 歳）2 人の聖火リレーランナーからいただいたコメントをご紹介します。



大好きなスポーツで、町に活気と笑顔を届けたい

母の実家が三戸町なので、私が小さかった頃の長期休暇は、よく三戸の祖父母の家に遊びに行っていました。長い間、県外に住んでいましたが、平成 27 年に三戸町へ移住。

「活気と笑顔あふれる三戸町にするため、私も力になりたい」と考えていたとき、聖火リレーランナーの募集を知りました。「私がランナーになったら、祖父母や家族、勤め先の老人ホームの人たちも笑顔になって、三戸町に元気を届けられるかな」と思い「一生に一度の挑戦だ」と意気込んで、応募を決めました。走る直前まで緊張していましたが、応援してくれている参道の人たちや家族、地元の皆さんに力をもらい、楽しく走りきることができました。

勤め先の老人ホームを利用している人からは、走る前にたくさんの応援をいただいていた。私の走る姿を見て感動してくれた人もいたようです。私の大好きなスポーツで、少しでも地元の皆さんに活気と笑顔を届けられたのなら、大変嬉しく思います。

「トーチでつなぐ命のリレー」心を次の世代につなげたい

「やればできる」。亡き父の教を胸に、私の娘たちには「人に負けても、自分に負けるな」と教えています。私自身も「諦めないことの大切さと、挑戦することの素晴らしさを子どもたちに伝えたい」と 43 歳のときにマラソンを始め、3 年後には 100km マラソンを完走することができました。

間違いなく子どもたちの記憶に残るであろう、東京 2020 オリンピックとパラリンピック。「諦めずに、チャレンジし続ければ夢は叶うんだ」ということを伝えたい思いで、聖火リレーランナーへの応募を決意しました。開催のために尽力してくれているスタッフの皆さんをはじめ、応援してくれる地元の皆さんや家族の存在とサポートには、本当に感謝しています。

聖火リレー後は、子どもたちにとって一生の思い出になってほしいと願い、実際に使用したトーチを町内すべての小学校に持ち出して触れてもらいました。今回の聖火リレーをとおして、地元の子供たちが「自分の夢に向かってチャレンジする心」を持って、三戸町の明るい未来のために活躍してくれることを願っています。

階上町走行
おばらくにひろ
小原 国宏 さん



※小原さんのご厚意により、トーチをパラリンピック終了まで三戸町役場 1 階に展示しています。

SNS で町からの情報をお届けします。
フォローや友だち追加、お願いします。
Twitter、Facebook、LINE、Instagram



Twitter



Facebook



LINE



Instagram